

かとり

No. 89

普及だより

URL: <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-katori/index.html>

平成31年1月1日発行

香取農業事務所 改良普及課
香取地域農林業振興協議会

〒287-0003

千葉県香取市佐原192-11

TEL: 0478(52)9195

FAX: 0478(55)1703

平成30年度 千葉県産さつまいも 品種別販売方針

さつまいもは品種ごとに用途や消費期が異なります。最適なさつまいもを有効活用するために、計画的な出荷を心がけましょう！

品種名	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	主な用途
ベニアズマ														多用途への販売 (煮食用、保存用、茶漬加工用)
べにはるか														需要期の 焼き平向け販売
シルクスイート														年内の焼き平向け販売
高系品種														多用途への販売かつ 地球ブランド

「シルクスイート」で焼き平向けの品種ローテーションを行うことで、量販店等の売場を確保します。

「30日貯蔵ルール」を定めて出荷量を減らし、焼き平の需要が特に高まる年明けに供給します。

「シルクスイート」で、量販店等の焼き平売場をから販売します。
(べにはるかとの焼き平を避けるため、年明けに集中)

焼き平需要が減少する夏までに
出し切ります。

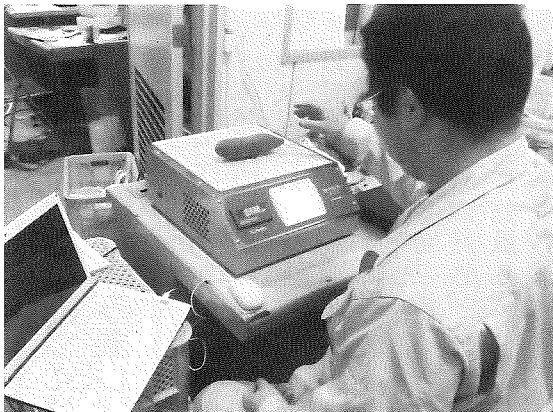
高系品種は地球ブランドとして産地ごとに独自の販売戦略を実施します。

品種別販売方針

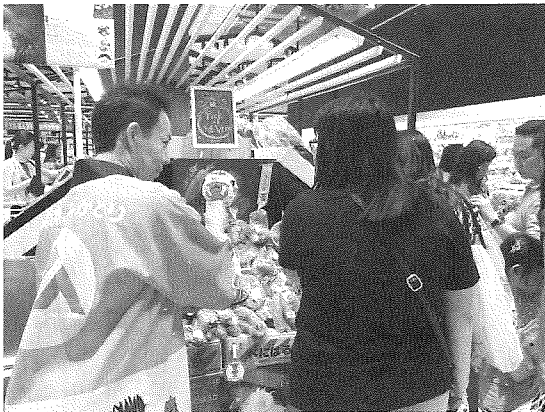


ちばのさつまいも産地研修会

さつまいも産地の活性化を目指して
産地の最新動向



フルーツセレクター®による充実度測定
(JAかとり栗原集送センター)



JAかとりマレーシアでの販売促進活動

JAかとりで平成二十六年から始まったマレーシア向けの輸出は、国内では需要の少ない小さい規格のものが人気で、平成二十九年には百三十一トンまで拡大しました。また、「周年安定出荷」が求められる中、光センサーによる充実度測定機器を導入し、県農林総合研究センターとも連携して、貯蔵中のロス低減や品質低下防止に向けた取組を始めています。

千葉県では「品種別販売方針」を作成し、時期ごとに重点的に販売する品種を明確にし、有利販売につなげています。香取農業事務所では、関係機関と連携して、先進産地の事例から販売戦略の重要性を学ぶ研修会を八月に開催しました。

さつまいもは、粘質系で良食味の新品種（べにはるか・シルクスイート）の登場で需要が高まり、全国各地で産地化が行われています。産地間競争の激化が予想されるなか、香取農業事務所では実需者ニーズに対応できる産地づくりを進め、農業者の所得向上を目指しています。

さといも疫病の発生と対策

■さといも疫病とは

さといも疫病は、さといもの仲間だけに感染するカビによって引き起こされます。罹病すると葉や葉柄に褐色〜黒褐色の壊死斑が発生します。早期の発病や拡大は地上部の枯死を早め、減収につながります。また、前作の残渣や種芋の表面に付着した菌が発生源となります。風や雨によって伝染し、百メートル離れた株にも伝染することが確認されています。

■発生状況

千葉県では、平成二十八年に印旛地域で発生が確認、平成二十九年に香取地域でも発生が確認されました。平成三十年は七月頃から発生が見られ（セレベス）、台風通過とともに拡大し、晩生品種（土垂、ちば丸）でも罹病が確認されています。

■防除方法

①発生源の除去

・発生ほ場やその近隣ほ場は翌年の作付を控えましょう。

・残渣は極力は場外に持ち出し処分し、残りはロータリーで破碎して分解を促進しましょう。

・種芋はまず洗浄して表面の土壌を取り除き、劣化・腐敗した芋を水選で取ります。（洗浄水は、ケミクロンG希釈液（五万〜十万倍）を使用）。

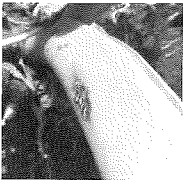
さといもは六度以下の低温に弱いので、厳寒期の処理は注意してください。

②栽培期間中の防除

子芋の肥大が始まる頃から感染が見られ始めます。早生品種は五月中旬から、中晩生品種は梅雨入り直前から薬剤散布を開始してください。発病前は予防剤（ジーファイン水和剤）、発病後や台風通過後は治療剤（アミスター20フロアブル）の散布が効果的です（展着剤としてハイトンパワー、スカッシュ、アプローチBIのいずれかを加用してください）。



葉の病斑



葉柄の病斑

高温に負けない稲づくりに取り組みましょう

■平成三十年の気象

本年は四月から八月までの平均気温が観測史上最高で、夏だけでなく生育期間を通して高くなりました。特に六月下旬から七月は降水量が少なく、日照時間の長い日が続き、八月には高温に加えて強風も吹きました。

■平成三十年の作柄状況

本年の水稲は、特にコシヒカリにおいて千粒重や登熟歩合が低下、層米も増加し収量が低下しました。また、白未熟粒の発生による外観品質の低下が一部で見られました。（表）

移植後から気温が高かったため、生育前半に過繁茂となり、穂数や籾数が過剰になりやすい傾向にありました。併せて、出穂前後の窒素不足による葉色低下や登熟時期の高温、稲体の水分不足によって登熟が阻害されたことが要因として考えられます。

■高温に負けない米づくり

水稲は登熟期間の気温、稲体の

の水分状態が収量や品質に影響します。次に示す栽培管理により生育後半まで稲の活性を保ち高温に負けない稲づくりに取り組みましょう。

①適期中干しの実施

過繁茂の防止と根張り向上のため目標穂数の八割を目安に中干しを行いましょ。

②適期穂肥の実施

出穂前後の葉色低下を防ぐため、葉色に注意しながら適期に穂肥を施用し登熟期間中の栄養を維持しましょう。

③出穂後の水管理

適切な水管理により根の活力維持を図ります。出穂後十四日までは湛水管理。出穂後二十五日までは、間断かんがいを行います。

平成30年 コシヒカリ	㎡当たり 穂数 (本/㎡)	1穂 籾数 (粒)	登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)	計 収量 (kg/10a)
(香取市)	451	70.0	75.7	21.0	501
(多古町)	417	86.0	74.8	19.9	536
(生育目標)	400	80.0	80.0	21.0	540

平成30年度水稲作柄安定対策調査ほ結果より抜粋



香取管内初の 「ちばGAP評価書の取得」 「経営改善効果を実感」

香取市の高橋勇樹さんが香取管内初となる「ちばGAP」の評価書を取得しました。高橋さんは、雇用を導入しながら水稲二十四haを営む地域の若手生産者です。

■GAPに取り組んだきっかけ
高橋さんは、GAP研修会への参加や農林水産省の職員との意見交換等とおして「今後は取引先や消費者からGAPを求められる時代が来る」と痛切に感じ、GAPに取り組もうと決意しました。

■GAP導入の経緯と課題
まずは、千葉県独自の制度で認証費用等が無料の「ちばGAP」に挑戦しました。導入にあたっては、農業事務所や民間企業から指導を受け、自分の農場にある課題を一つずつ解決していきます。

GAP導入で時間が掛かったのは、各種の点検・記録簿や作業マニュアルの整備でした。作業場の整理と併せて備品台帳の

作成、家族や従業員の仕事内容を明文化しルールを定めることが大変でした。

■GAP導入の効果

肥料や農薬等の在庫管理が徹底され、コストの低減に繋がりました。また、マニュアルや過去の作業記録がしつかりと整備されたため、従業員への指示が出しやすく、業務効率が改善されました。さらに、マニュアルを整備したことでクレームや事故等の不測の事態があった際、トラブル対応が迅速になる等の効果がありました。

■今後の目標

さらなる経営改善を目的に、今後JGAPの取得を視野に入れ、安全・安心な農業を実現して、取引先や消費者に選ばれる生産者を目指しています。



農場評価を受ける高橋さん

引き続き飼料用米に 取り組みましょう！

米の消費量が年々減少している中、米の需給と価格の安定を図るために、飼料用米を作付する等、需要に見合った生産を行うことが重要です。

飼料用米の収入は、国や県からの助成金により、米価の変動を受けずに安定した収入が確保できます。

多収になるほど、助成単価が上がり、さらに多収品種（早

生・中生品種「アキヒカリ」、晩生品種「夢あおば」）に取り組みと助成金が加算されます。

県では、平成三十年年度において、5ha以上の多収品種の団地化に対しての加算措置や、飼料用米の生産に必要な籾乾燥機やフレコンバッグの導入費用の一部を助成する補助事業を行っています。

詳細は、各市町農政担当課又は農業事務所企画振興課（〇四七八（五二）九一九二）へお問い合わせください。

野生鳥獣被害には 早めの対策を！

香取管内では野生鳥獣によるサツマイモや落花生などの農作物被害が続く現状にあり、被害の半分はイノシシによるものです。野生鳥獣被害の拡大防止には、以下の三つの対策が効果的です。

■餌になるものは除去

特に収穫が終了した圃場での収穫残渣の放置は野生動物の誘引に繋がります。

■藪などの潜み場所を除去

イノシシは警戒心が強い動物です。農地周辺の雑草管理の徹底により、イノシシの潜み場所を減らしましょう。

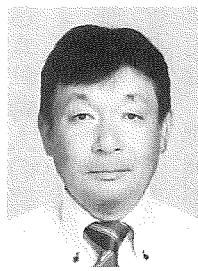
■侵入防止柵を設置

イノシシは柵の下に潜り込んで圃場に侵入します。柵は高さよりも潜り込み対策が重要です。野生鳥獣対策は、地域ぐるみで連携して取り組むことが大切です。被害及び目撃情報等は、各市町、香取農業事務所に連絡してください。

千葉県指導農業士・農業士認証者の紹介

平成三十年年度農業士等認証式典が十一月十三日に千葉市で開催され、当農業事務所管内では指導農業士二名・農業士二名が認証されました。

●指導農業士



根本 芳和さん
(香取市)

露地野菜の多品目経営で環境にやさしい農業に取り組んでいます。農業者団体で活動するなど、今後も担い手育成等での指導力の発揮が期待されます。

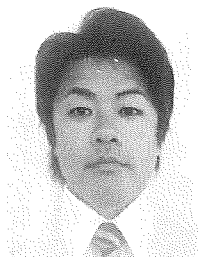
●指導農業士



篠塚美千代さん
(香取市)

水稻と農産加工の経営で、特に加工販売では先駆的な実践者です。女性農業者団体ではリーダーを務めるなど、今後も担い手育成等での指導力の発揮が期待されます。

●農業士



平川 慧さん
(香取市)

水耕小ねぎと漬物加工の経営において新たな栽培や加工に取り組んでいます。青年農業者団体で活動するなど、今後も地域での活躍が期待されます。

●農業士



橋 千春さん
(神崎町)

水稻、落花生、原木椎茸、露地野菜の経営において、減農薬・減化学肥料栽培に取り組んでいます。女性農業者団体で活動するなど、今後も地域での活躍が期待されます。

芳源マッシュルーム株式会社 日本農業賞大賞を受賞!

香取市米野井の芳源マッシュルーム株式会社が第四十七回日本農業賞個別経営の部で大賞を受賞しました。

同社は国産マッシュルームの約三分の一を生産する日本最大級のマッシュルーム生産法人です。

「美味しいマッシュルームを届けたい」との思いから栽培技術の研究を重ね、現在は栽培期間中に農薬を使わない栽培方法を確立しました。その高品質なマッシュルームは、外観・食味とも評価が高く、様々な料理で利用されています。

同社は地域の重要な雇用の場となっていることや、時流を見据えた優れた経営判断と、チャレンジ精神を以て経営を発展させてきたことが高く評価され、今回の受賞に至りました。

また、社長の菅原芳夫氏は千葉県指導農業士として活動し千葉県内外の若手農業者の指導

に努めています。

今後は、二十二十年の東京五輪・パラリンピックへの食材提供やアジア市場への参入を検討されていると、同社の先進的な経営に注目が集まっています。

農業経営体育成セミナー 平成三十一年度 新規受講生募集中!

就農直後の青年農業者を対象に栽培技術・経営手法の習得と仲間づくりを目的に三年間の農業経営体育成セミナーを開催しております、その受講生を募集しています(今年度参加者四十名)。

▼対象

概ね三十五歳迄の新規就農者

▼研修期間
平成三十一年五月から三年間

▼主な研修内容

- ・ 農業の基礎知識の講義
- ・ 先進的な農業経営の視察
- ・ 栽培技術の改善や経営分析手法の実習

▼お問合せ・申込み先

香取農業事務所改良普及課
○四七八(五二)九一九五